―朝の会・「みんなへのおしらせ」―

Q１ 発表したい子どもを募り、実施しているのでしょうか？

A１ その日のことをおしらせしたい子どもや、当番の子ども、知らせたい物を朝に持ちこんだ子どもなど様々です。
基本的には子どもの心づもりもあるので、子どもの文脈からお知らせできるようにしています。

Q２ 発表しづらい子ども、思いを表出しづらい子どもへの配慮や関わりはどうしているのですか？

A２ どの子供も、自分を見て欲しい！知って欲しい！という欲求はあると思っています。
「発表」という形態が不安なのか、言葉での表現が苦手なのか、その子どもの取り組みにくい性格などをみとり、発表形式でない「おしらせ」や多様な表現を他者に知らせる「おしらせ」など、子どもの育ちのタイミングを見ながら学級として育ち合えるように援助しています。
そうして３歳期・４歳期と経験を積み重ねてくると、５歳期では「おしらせ」をする土台ができてきます。なので基本的には、自ら手を挙げる子どもの中から「おしらせ」してもらいますが、教師から他児にも知らせたい子どもの様子があれば、教師から促すこともあります。また、言葉として出にくいあるいは、大勢の前では話しにくい子どももいますので、教師が代弁するあるいは制作であればそのものを見せることでみんなに知らせるなどの援助をします。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

―朝の会・みんなへのおしらせ―

Q３　（5歳児）子どもが進めるようになったきっかけや種まきは？

A３　「おしらせすること」や「おたずねすること」は、３・４歳期の経験により、子ども達の生活の中に根付いています。また、３歳期・４歳期でも全員が集まった時などに「子ども先生」を募って手遊びなどをすることもありました。朝の会等、学年始めは教師が進めています。「おしらせ」や「今日のスケジュール」といった内容、あるいは「おしらせ」と「おたずね」というやりとりなどを毎日繰り返していくことで、子どもも進め方の見通しをもつようになりました。そして、例えば「おたずねありますか。」と全体に問いかける子どもの言葉を捉えて「そうか、先生言わなくても自分達で言えるね。」など、ほんの少しのことから子ども自身でできることがまだまだある、と感じられるようにタネまきをしました。「司会も当番がやったらいいんじゃない？」と、他の当番の仕事と同様に、自分達でできることを子ども自身が見つけられるように援助してきました。始めから、全員が取り組んだわけではなく、「自分達でやってみよう。」と言い始めたグループから取り組み、その様子を見て「私たちも！」と徐々に広がっていきました。

Q４　丁寧な言葉で語っているように理解したが、小学校との接続等も意識したものですか？このような資質・能力は小学校へどのようにつながっているのでしょうか？

A４　「丁寧な言葉」は、「公」と「私」を意識できる個々の子どもの発達を捉えて援助しています。小学校での学習に向けて、ではなく、今目の前の子どもの育ちを捉えて支えています。
また、本幼稚園と小学校は育てたい資質・能力が一貫しているので、小学校への連続した発達や学びを見通し、例えば「自分の経験の要素を抽出して、言語化する」「友達の提案や話題を自分ごとにして、自分の考えを巡らせる。」など学習につながる大切な資質・能力であることを教師がきちんと把握して、今、育とうとしている姿を支えることを意識しています。

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

―学級全体活動―

Q１ いろいろな参加の仕方を認めることに共感しました。
経験を重ねても、意欲があまり引き出せない子どもへの援助や内容の再構成はどうしていますか？

A１ 「意欲が引き出せない」ことには、何かしら育ちを支える上で手立てが必要なのだと思います。「意欲」がなかなか湧かない子どもには、直接「意欲が出るように」と援助をするだけでは、結果的にその子どもには積める経験を重ねていない、という可能性も考えられます。なので、多面的に安定や安心、教師との関係、自信、居場所など、様々な要因を考えて多方面から育ちを支えています。
また、４歳児のデザイン例のように、子どもの興味の強弱を捉え、子どもの興味関心の強い分野（例えば昆虫、電車など）の文脈から、育てたい資質・能力はそのままに、取り扱う内容を子どもの文脈とつなぐことはよくあります。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

―教師の協働・保護者支援―

Q１ 先生同士が、保育後に振り返りや話し合い等をされていますか？

A１ 同じ学年同士は、保育の片付けをしながら話していることが多いです。他の学年の先生とも職員室に戻った時に話しますが、忙しい時期は、その時間が取れないこともあるのが悩みです。
今日の出来事について自分が聞いてほしいことも話しますが、保育後の環境や保育中の言動を思い出してもう一人の先生におたずねすることも多いです。

Q２ 今回の報告会の内容のようなことを、保護者に発信することがありますか？

A２ ほぼ毎月、「教育内容説明会」として、「育てたい資質・能力」と教育内容を関連させながら説明します。
今年度は、動画を作成しオンデマンドでの説明会も実施しています。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ー教育課程の内容などー

Q１　「資質・能力」ベースの教育課程
→一般的にはねらい・内容を組織すると思うが「発達に必要な経験」である「内容」によって育まれる「資質・能力」を明確化した考え方なのですか？

A１　そもそも教育課程については、研究的に様々なとらえがあります。
本園では、「発達に必要な経験」は、子ども一人一人異なることを前提にしています。
そこで教育課程を「学校教育における園児の経験の総体」として表現するため、結果として子ども達が身につけた「潜在的カリキュラム」も含んで、「育ちの履歴」を作成しました。
子どものどのような資質・能力を育てたかったのか、その核を小学校教諭と互いに尋ね合いながら自分の実践知を言葉にして立ち上げましたが、見えない資質・能力はイメージしにくいため、具体的な姿を写真とともにデザインしたのが、現在の教育課程になります。
故に、「内容」を先に計画するのではなく、育てたい資質・能力があり、目の前の子どもの姿や子どもの文脈から内容を選択していく、という教育課程の考え方の転換が「資質・能力ベース」という表現になっています。

この教育課程の編成の過程の詳細については、
〇奈良女子大学附属幼稚園　研究紀要　第32集
〇奈良女子大学附属幼稚園・小学校　文部科学省研究開発実施報告書（平成30年度第４年次）
　https://opac2.lib.nara-wu.ac.jp/webopac/30-4-houkokusho_nw._?key=WZDBCB
〇松田登紀(2020)実践知から立ち上げる資質・能力ベースのカリキュラム開発プロセス
　http://www.nara-wu.ac.jp/crades/journal/journal_15.pdf
〇松田登紀(2019)「幼小一貫して育てたい資質・能力」を立ち上げたプロセス
　－教育実践における教師の意図を言語化する－
　http://www.nara-wu.ac.jp/crades/journal/journal_14.pdf
などをご参照ください。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©

ー教育課程の内容などー

Q２ 教師のこころもち・実践をデザインするコツを、今後の保育展開において
どのように活用していこうと考えているのですか？

A２ 今回の研究で提案した「教師の心もち」や「実践をデザインするコツ」は、
今後の活用というよりもむしろ、これまで実践知として無自覚に実践してきたものを
言語化しデザインしたものです。
これは、これまで幼児教育が「ただ遊んでいる」ように見える、見えない教育と言われてきたことを、教育実践として小学校の先生方や保護者、地域の方々に理解していただくために何ができるか、ということと、
幼児教育が公教育であり、学校教育である、ということを私たち自身が責任を持って自覚するためにも必要ではないか、と考え、実施したものです。
保育の質の向上が課題とされる時代に、私たち日本の保育者が何を大切にして実践をしているのか、実践者自身が自覚することで語る言葉をもち、自分達の実践から評価軸や質について語り、立ち上げていくことが重要ではないかと考えています。与えられた枠組みでは自分ごとにならないのは、子どもの学びと同じではないでしょうか。
その一歩としての今回の研究になります。
先生からのご質問をいただき、「活用」という考え方もあるのだと学びました。
園内研修などで保育をリフレクションする際に共通のキーワードとしたり、
小学校との合同研修において子ども自身が主体的な学びとするための視点としたりすることで、実践者自身が保育を語るきっかけになれば幸いです。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ーその他ー

Q１ 各学年の事例の時期はいつ頃の事例ですか？（３歳児は入園後どれくらいの時期ですか？）

A１ 各学年とも、9月、10月の事例です。但し、今年度は登園は6月の分散登園から始まり、学級全員が毎日登園するようになったのは、4歳児と5歳児は6月最終週から、3歳児は7月3週からでした。

Q２ 自由選択活動の時間は、どれくらいの時間を確保していますか？

A２ 年齢によっても違いますが、1時間前後のことが多いです。弁当日には、自由選択活動を2回とることが多いです。
その日の活動内容や行事の有無によっても変わってきます。また、今年度は、密を避けるため、登園・降園を学年によって時間差をつけざるを得ませんでした。そのため、保育時間が短くなり、それぞれの活動の時間が例年より短くなっていた時期もあります。

Q３ （4歳児）お茶の時間の後の、学級全体活動の時間は毎日ありますか？

A３ たいていあります。時間や内容は、その時期や曜日に関連して様々です。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ーその他ー

具体的な事例を教えてください。

ぜひ！と言いたいところですが、
なかなかHP上でお答えすることが難しいと感じました。
なので是非、公開保育にお越しいただき、実際の保育を見ていただければ幸いです。
たくさんのご意見、ご質問をいただき、ありがとうございました。